

日本基準寝具株式会社

〒731-0124 広島市安佐南区大町東2-15-2 (本社・工場) ☎082-877-1011

〒738-0022 廿日市市木材港南7-13 (廿日市工場) ☎0829-31-0022

<http://www.nihonkijun.jp>

会社概要

沿革

設立は昭和38(1963)年。本社は広島市安佐南区大町東。本社、廿日市、佐伯の3つの工場があります。

東洋観光グループの一員として、病院やホテルの業務用品の製造、リース、販売、クリーニング、介護支援のトータルサービスまで幅広く業務を行っています。また、知的障害者を中心に、重度障害者の雇用を積極的に進めています。

また、在宅介護用品のレンタル・販売の「エコール」を展開、広島、山口、岡山にショールームを設け、「クリーンコミュニケーション」を推進しています。

雇用状況

従業員数 92名

うち障害者数 58名

(平成13年11月現在)



廿日市工場外観

障害者雇用優良事業所表彰

広島県雇用開発協会会長表彰(昭和61年)

広島県知事表彰(昭和63年)

労働大臣表彰(平成3年)

ISO9001 認証取得(平成14年)

事業の概要

病院・ホテル等の業務用寝具類等の製造、リース、販売

洗濯クリーニング、および再生加工

医療用具、福祉用具の販売、リース

居宅介護支援事業に関する業務

要介護者、身体障害者等の日常生活における介

護サービス

廿日市工場は特に病院寝具、手術衣の洗濯・仕上げ、および縫製、補修などを行っています。

エコールショールームでは高齢者・障害者の在宅介護用品を多数展示しています。

障害者雇用に向けて

取り組み、工夫

日本基準寝具廿日市工場は、清水工場長の指導のもとに、ユニークなシステムで従業員の向上と能力を引き出しています。それは問題点の克服度を大きく3段階（来る 分かる できる）に分け、それぞれに独自の対応策を設け、効果を上げています。



分かりやすい言葉で掲げられた工場方針

欠勤グラフの採用

工場が稼働し始めたときの一番の問題点は欠勤。この問題に対し、休んだ分色を塗っていくという「欠勤グラフ」を採用、だれの目にも一目で分かるよう工夫。最初は色とりどりの華やかな状態だったのが、だんだん同僚同士の「いけんのんよ」といった相互注意が行われるようになり、その後ぐっと欠勤が減ったとか。「友だちに注意されればきくものですね」と工場長。現在ではほぼ必要なくなり、記入ゼロに近い状態になっています。

ホワイトボードの活用

2番目の問題点は、行事の通達や仕事の周知徹底が行きとどきにくく、行動がバラバラになってしまう点。これに対し、だれもが出入りする食堂や現場にホワイトボードを設置、伝達事項を書き込むようにしました。最初はふりがなをうつなどしていましたが、これも従業員同士の「今度こんなことがあるらしいよ」といった相互確認（教え合い）が習慣化し、伝達事項が確実に行きわたるようになりました。今はふりがなもなくなり、従業員の「見る（確認する）習慣」も定着したようです。



食堂にあるホワイトボード。従業員の自覚の高まりによって、だんだんと記入事項も減りつつあります

「廿日市ギネス」、志願制度の採用

これは工場長の命名した「最高記録表」のことで、部署ごとに最高記録を達成すると、ギネス表に載り、表彰されるというもの。「会社は仕事という名の遊びを友だちと一緒に競う場」の基本理念のもとに、仕事をゲーム化、楽しんだり達成感を味わえるようにすることで、向上心を引き出しています。

休日出勤や夜勤は原則志願制にし、×表をつかって記入。「できる人の仲間になりたい」との意欲をかき立てる効果があるようです。勤務態度や能力の高い人はリーダーに任命するなどの制度も採用しています。



「廿日市ギネス」表彰状

日付	得意	記録	担当者	記録
11月
23日
31日
4日
5日
6日
7日

「廿日市ギネス」

Manager's Interview

廿日市工場は昭和60（1985）年に稼働しました。当初は布団の打ち替え作業専門でしたが、予想した以上の生産能力・作業品質を発揮、現在は、病院寝具・病衣・手術衣のクリーニング、縫製や補修などの業務にまで作業内容を発展させています。ここまできたのも「やればできる」の繰り返し。当初10人余りだった障害者も今では60名近く雇用、社員数も3倍近くに増え、それにつれて工場設備もどんどん増設してきました。現在は病院クリーニング一括工場として、来年のISO認証取得を目標にがんばっています。



取締役 廿日市工場長
清水 郁夫さん



課長 杉岡 洋さん

杉岡さんが新入社員の人に必ず言うのが、「友だちを作れ」ということ。「友だちがいればのびのびと仕事ができますし、ここならそれができます」とのこと。「常日頃から、細かいことは言わず、できる限り本人に任せています。もちろんフォローはしますが、友だちと一緒に競い合って仕事をすれば、自然と能力は上がっていきます」

主任 楠本 あゆみさん

楠本さんは入社後6年ながら、50人のローラー仕上げ職の取りまとめ役として「いつもゲーム感覚で、厳しいながらも笑いを入れながら」仕事をされています。工場の方針である「信賞必罰」を徹底し、「しかるときは厳しく、ほめるときは楽しく」、一日何枚という目標を与えていますが、「中にはすごい集中力を発揮する人もいます。とても私にはまねできない」と感じることもあるとか。





班長 前田 弘美さん

前田さんは平成9（1997）年からこの工場で勤務されています。入ったばかりの時の印象は、「すごい、活気があるな」というものだったとか。「障害者福祉施設を見たことがあるのですが、静かで、おとなしい雰囲気でした」「ここではみな生き生きしておられます」。単純作業になりがちな工場勤務の中で、みんなできるだけいろんな作業に従事してもらうことを心がけているそうです。



クリーニングに出されたものを袋から出す作業をしていらっしゃる末田さん。ものすごくスピードの速い工場のラインの中で、てきぱきと作業をこなされていました。広島市安佐南区から通っていますが、「遠くても友だちがいっぱいいるから仕事が楽しい」とのことでした。

7号ローラーで勤務されている西村さん。広島市安佐北区可部から通っていらっしゃるせいか、「朝4時に起きて、5時に出る」のだとか。会社の定時より1時間も早く出勤しています。「班長やみなさんからいろいろまかせてもらっています。仕事を覚えるために、残業やらせてくださいとも言います」とにこやかに答えてくださいました。



中学校を卒業後、この工場に勤務して10年になる下阪さん。仕分・洗濯、入・出荷、ローラー作業と工場内の仕事はほとんどこなせるそうです。「何でもできる人になりたい」とのこと。新人社員の指導もこなされています。



勤務して13年になる井手端さん。クリーニングの終わった製品の汚れをチェックし、10枚ひとまとめにして、結束機で結束する仕事をされています。シーツの折り目なども正確で、とてもスピードの速い作業でした。井手端さんもやはりこの工場での勤務が今までで一番自分に合っているそうです。3号ローラーのリーダーとして「何かと大変ですが、やりがいがあります」とのことです。

TOPICS

福利厚生面での取り組み

毎年、3グループ選択（1泊国内、2泊国内、3泊海外）で社員旅行を行っています。

忘年会、花見、カラオケ大会などで親睦をはかっています。また、工場長主催の釣りクラブ（雑魚釣りクラブ）や野外行事など、希望者だけのイベントも行っています。



日本ハムにドラフト指名された社員の祝賀会もかねて行われた忘年会の一コマ